

所属・資格 社会学科・准教授

申請者氏名 松橋 達矢

研究課題		交通網再編に伴う集住地域形成プロセスの多系性をめぐる社会学的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本年度は、交通網再編に伴い同時期に集住を開始する社会層の流入と定着が既存の地域社会へもたらす葛藤と再秩序化に向けたプロセス、そしてその帰結として現われる東京都心へと直結する労働力確保と再生産を担う集住地域形成のバリエーション把握をめざし、交通インパクト測定の修正 MHASR モデル(後藤範章)に基づきながら、a.川口市鳩ヶ谷地域、b.板橋区舟渡地域、c.足立区入谷地域、で実施した調査票調査結果の分析を通じ、東京 15-20km 圏のブルーカラーベルト地帯における「郊外」への「代置」メカニズムの検証を試みた。
	研究の 結果	今回明らかになったのは、1) Accessibility→Mobility の高まりという共通性、2) Accessibility→(Mobility の高まり)→Regionality の拡大のバリエーション、3) Solidarity の解体と再編の困難という共通性、4) Habitability をめぐる評価の共通性とバリエーション、の 4 点に大別される。1)については、東京圏における産業配置の転換に伴い、それに適応した職業への従事者ならびにその家族が、新線開通に伴うネームバリュー向上と安価な地価・家賃で提供される新規住宅群へと流入し、住商工混交地域の社会構成を変化させるという意味での共通性を有している点が、2)については、中心部への通勤・通学を前提に、当該地域へと流入した新規住民層がもたらす地域におけるライフスタイルの移行(職住近接型から職住分離へ)は、地域の状況や生活環境整備の進展に応じて「時間差」が生じる点が、それぞれ明らかとなった。3)については、自ら積極的に周囲や外部と協調しながら意思決定や問題解決を図ることが可能な「職住近接」を前提とする層と、そうした関係資源を有しないが故に専門的な外部機関への依存が深まっていく「職住分離」を前提に活動する層のあいだでの齟齬が生じる点が、4)については、地域の状況や自治体による生活環境整備の進展度合いに応じて提供される関連サービスと、居住者のニーズのギャップの大きさが居住性評価や定住意思の多様性をもたらし、旧住民層にもその影響が表れている点が、主たる知見となる。
	研究の 考察・ 反省	①今回採り上げた鉄道路線沿線地域では、路線ごとにある種の共通性が浮かび上がる結果となったが、東京 15-20km 圏におけるバリエーションを把握するのであれば、「交通インパクト」研究でも採り上げたつくばエクスプレス(TX)沿線地域の検討は外すことができない点、②方法的な問題として、調査テーマの兼ね合いや実査上の理由から、なるべく特色が出やすい住商工混交地域を町丁単位で選択した調査(b・c)と、市域全体を対象とした調査(a)、の比較可能性、の二点が課題として挙げられる。今後は、駅近隣における住商工混交地域のうち、同程度の地域を対象として選択し、調査を行うことで結果の「確からしさ」を高めていくことを目指したい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 松橋達矢, 2019, 「2000 年代東京圏における都市構造再編の動向——「交通網再編」からみた東京の「中心性」の今日的形態」, 2019.7.27, 日本大学社会学会 2019 年度大会(テーマ部会:研究発表). 松橋達矢, 2019, 「「交通インパクト」がもたらす都市・地域構造変動の内実とそのバリエーション——東京 15-20km圏における住商工混在地域を事例として」, 2019.9.6, 日本都市社会学会第 37 回大会(自由報告部会:研究発表).	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	一般財団法人第一生命財団編『調査研究報告書』交通網再編に伴う集住地域形成プロセスの多系性をめぐる社会学的研究——東京 15-20km圏のブルーカラーベルト地帯を事例として』1~5 章:1-65、Appendix:1-25, 2019.6.15, (単著:研究成果物) 松橋達矢, 2019, 「交通網再編に伴う住商工混在地域の「郊外」への代置プロセスに関する研究——埼玉高速鉄道沿線地域における産業配置の変化と「交通インパクト」の相互浸透」, 2019.5.31, 日本都市学会『日本都市学会年報』第 52 号: 177-186.(単著:研究成果物)	